京都府の教育をリードする中丹の教育の創造

中丹の教育 まなび通信

京都府中丹教育局
第１８５号
令和４年９月２０日

令和５年度京都府学力・学習状況調査
円滑な実施と効果的な活用、個別最適な学びの実現に向けて

令和4年度「中丹の教育」コア会議 令和４年９月２日（金）開催

課題提起

「学校の中核を担う教務主任として、校内での役割や責任を自覚し、児童生徒の教育活動の充実、学力の向上、学校の組織力向上など、学校組織をさらに活性化させる必要がある。」

教務主任としての役割

組織を活性化し、動かすポイント

計画・管理

情報収集

連絡・調整

学校の中核として、教務主任が組織を動かす

「京都府学力・学習状況調査を効果的に進め、個の伸びや変容を継続的に把握し、児童生徒の学力向上につなげる必要がある。」

講義

「京都府学力・学習状況調査の概要と結果分析について」

京都府教育庁学校教育課指導部 中村 一也 指導主事

調査の目指すところ
児童生徒一人一人の「学力の伸び」と「非認知能力の変容」を継続的に把握することで、一人一人の状況に最適な指導につなげる

経年比較
小4から中3まで学力の伸びを図ることができる

非認知能力
認知能力と非認知能力を一体的に測ることができる

即、指導に生かせる
CBT 化することで、結果がすぐ出る。児童生徒も自分自身で振り返ることができる

多面的に捉える
一人一人の児童生徒を多面的に捉え、支援につなげる

研究協議

協議の柱
(1)京都府学力・学習状況調査の結果から、子どもの状況をどう見取り、どのような指導や支援ができるのか。
(2)教務主任として、調査実施に向けて、何が必要になるのか。

(1)(2)どちらの研究協議も、個人→グループ→全体交流の流れで行いました。(1)では、模擬のデータを使って、分析、支援の検討を行いました。グループや全体で交流することで、個人では考えが及ばなかった新たな分析や見取りの視点に気付くことができ、多様な視点から分析することの大切さを学びました。

また、(2)では、調査実施に向けて、各校での具体的な準備と共通確認しておかなくてはならないポイントについて交流し、次年度へ向けて教務主任としての動きを再確認しました。

参加者振り返りより

・子どもたちがより効果的に学ぶことができるように、また先生方が**組織的なアプローチができるよう見通しを持って取り組みたい**と思いました。

・児童生徒が解答した内容と教師側からの普段の見立てとの違いが起こるのではないかと不安でしたが、一つの材料として活用し、**子どもへのさらなる理解として、支援の充実につなげる意図が分かりました。**

・その項目、教科だけでみることは難しく、**他の項目、教科のデータも見ながら分析することで、児童生徒の実態を深く掘り下げて理解していけるようになる**と感じました。

・**テストの結果だけで分析することはできないと実感しました。日頃の子どもの見取りが大切だとよく分かりました。**そのためにも、複数の目で見ること、積極的な意見交流ができるよう、**教職員のチームワークを高めていくこと**が必要だと思いました。

今年度中に取り組むこと

来年度から始まる調査について、子どもたちが戸惑うことなく取り組むためには、教師が調査についてしっかり理解しておくことが大切です。どんな調査なのか、どんな結果が返却されるのか、結果の分析をどう活用するのか、子どもたちにどのように返却するのかなど、具体的なイメージをもって実施できるように、校内で共通理解を図りましょう。また、端末を活用しての調査になりますので、情報活用能力の育成の視点を持って、操作の仕方や操作の用語等についても日頃からの指導を大切にしましょう。

ご不明な点等があれば、いつでも中丹教育局にご連絡ください。